科目名	言語	ΙA	-3												
科目名(英)															
単位数	4	4単位		時	間数	608	寺間	担当者							
実施年度	20	22年度	Ę	実施	時期	前	期	担当者実務経	験						
対象学科・学年	国際ビ	ジネス₹	斗1年			ı									
授業概要	N1レベル		:項目を学	≐び、日常	的な場面に	こ加えてより幅。	広い場面で使ね	われる日本語が:	理解し、運用	できるようになる					
授業形式	講義:	0	演習:	Δ	実習:	実	技:	※ 主た	る方法:〇	その他:△					
	言語 知的 運情報 技能 技	動態度 意欲	その他				目標								
	0		日常	のより幅広	い場面で必	要なN1レベルの	文型を理解し、	自分の言葉で説明	できる						
学習目標	0		フォ・	ーマルな場	面と日常的	な場面での日本	語の差異を理解	し、適切な文法の	使い分けができ	き る					
(到達目標)	0		学習	した文型を	使って相手	や状況にふさわ	しい文を作ること	:ができる							
テキスト・教材 参考図書	『新完全	マスタ	一文法	日本語館	能力試験N	N1』(スリーエ	ニーネットワー	ク)							
	回数														
	1・2 授業概	要説明	問題紹介	/ 第1部1	課時間関係	:		新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
	3・4 第1部2		の始まり・降	限度 /3課	限定・非限定	定∙付加		新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
	5•6 第1部4	 ŀ課例示	/ 問題(1課~4課)				新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
	7•8 第1部5	5課関係・	-無関係 /	6課様子				新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
	9・10 第1部7	·課不随	行動 /8課	逆説				新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
	11.12 問題(1	課~8課	!) / 9課条	件				新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
授業計画	13-14 第1部1	O課逆訪		1課目的・	手段			新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
汉未 问	15·16 第1部1	2原因・	理由/問	題(1課~	12課)			授業内評価テスト	·準備						
	17・18 授業内	評価テス	K►① / 10	3課可能・不	可能∙禁止			新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
	19·20 第1部1	4課話題	₫∙評価の	基準 /15課	比較対照			新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	ること					
	21-22 第1部1	6課結末	ҟ∙最終のネ	犬態 / 問題	〔1課~16	課)		新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	ること					
	23·24 第1部1	7課強訓	周 /18課主	張∙断定				新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
	25·26 第1部1	9課評価	西•感想 /2	⑵課心情・	強制的思い			新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
	27·28 問題(1	課~20	課) / 文》	去形式の整	理A動詞の	意味に着目1		授業内評価テスト	·準備						
	29·30 授業内	評価テス	小② /文	法形式の塾	を理A動詞の)意味に着目2		新出語彙等は必ず	ず家で復習をす	-ること					
	以上を下記	記の観り	点·割合	で評価す	る。	スト、課題を9 上)・B(70点)		点以上)•D(59;	点以下)とす	る。					
評価方法				言	語情報	知的技能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合					
叶侧刀还	授業	内評価	ゴテスト		0	0				60%					
		小テス	14		0	0				20%					
		受講状	況					0		20%					
履修上の注意	授業計	画は状	況により	変更にな	こることが	ある。									

科目名	1	言語	吾 I	A	-2												
科目名(英)																	
単位数		4	単位	Ī.		時間数		60時間		担当者							
実施年度		202	22年	度		実施時期	ı	前期		担当者実務網	圣験						
対象学科・学年	[3	国際ヒ	 ごジネ	トス和	科1年												
授業概要	N	2レベ	いしの	文法	項目	を学び、日常的	りなり	場面に加えてよ	り幅の	広い場面で使わ	われる	日本	語を理	関解し、	運用 [·]	できるよ	うになる
授業形式	講	義:	C)	演	習: △	実	習:	実技	支:		*	主たる	方法	:0	その作	也: △
	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他					目標							
	0					日常のより幅広	い場	面で必要なN2レヘ	ベルの	文型を理解し、	自分の	言葉	で説明で	できる			
学習目標	0					フォーマルな場合	面と日	日常的な場面での	日本語	語の差異を理解	し、適切	リなさ	法の仮	きい分け	ナができ	きる	
(到達目標)		0				学習した文型を	使って	て相手や状況にふ	いさわし	しい文を作ること	ができ	る					
: *																	
テキスト・教材 参考図書	ſ	新完	全マ	'スタ	之一文	法 日本語能	と力に	試験N2』(スリ·	一エ ・	ーネットワー	ク)						
	回数					授業項	頁目	∙内容					授	業外	学修	指示	
	1	第1部	那 1	課「~	~とき	•~直後に」					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	2	第1部	那 2	課「~	~して	いる(進行中)」					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	3	第1部	邪 3	課「~	~後で						新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	4	第1部	第 4	課「筆	范囲の)始まりと終わり	り・そ	·の間」			新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	5	第1部	邪 5	課「~	~だけ	+J					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	6	第1部	第 6	課「~	~だに	ナではなく・それ	に加	lえて」			新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	7	第1部	服 7	課「~	~l::	いて・~を相手	FICL	て」			新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	-ること	
	8	模擬	試験	問題	1 1						間違え	た箇	所は必	ず復習	をする	こと	
	9	第1部	那 8	課「~	~を基	準にして」					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	10	第1部	那 9	課「~	~ に 厚	関連して・~に対	す応し	て」			新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	11	第1部	邶 1C)課「	~や	~など」					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	12	第1部	那 11	1課「	~(:	関係なく・無視し	て」				新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	13	第1部	那 12	2課「	強く召	〒定する・強く否	定し	ない」			新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	14	第1部	那 13	3課「	~(記	5題)は」					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
授業計画	15	模擬	試験	問題	2						間違え	た箇	所は必	ず復習	をする	こと	
	16	第1部	报 14	4課「	~け;	hど」					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	17	第1部	那 15	5課「	もしそ	うなら・たとえ	そうて	きも」			新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	18	第1部	那 16	3課「	~だ	から(理由-1)」					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	19	授業	内評	価テ	スト	D					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	20	第1部	那 17	7課「	だから	5(理由-2)」					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	21	模擬	試験	問題	3						間違え	た箇	所は必	ず復習	をする	عت	
	22	第1部	服 18	3課「	~で	きない・困難だ・	~7	: :きる」			新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	23	第1部	那 19)課「	~を!	見て評価すると	•~(の立場で評価す	-ると ₋	J	新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	
	24	第1部	那 20)課「	結果	はどうなったか	J				新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	-ること	
	25	第1部	那 21	1課「	強く言	う・軽く言う」					新出語	彙等	は必ず	家で復	習をす	ること	

麻生情報ビジネス専門学校 シラバス

	26 第1部 22課「~だろうと!	思う」			新出語彙等は必	ず家で復習をす	ること						
	27 第1部 23課「感想を言う	·主張する」			新出語彙等は必	ず家で復習をす	ること						
	28 第1部 24課「提案する・	意思を表す」			新出語彙等は必	ず家で復習をす	⁻ ること						
	29 前期総復習・定期試験対策 試験範囲をきちんと把握し家で復習すること 30 授業内評価テスト②												
	30 授業内評価テスト②												
	(1)授業内評価テストを実施する。(2)小テスト、課題を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。												
			上)·B(70点。 知的技能	以上)·C(60; 運動技能	点以上)·D(59 態度·意欲	点以下)とす	る。 評価割合						
評価方法		以上)•A(80点以											
評価方法	成績評価基準は、S(90点)	以上)·A(80点以 言語情報	知的技能				評価割合						
評価方法	成績評価基準は、S(90点) 授業内評価テスト	以上)·A(80点以 言語情報 ◎	知的技能				評価割合						
評価方法	成績評価基準は、S(90点) 授業内評価テスト 小テスト	以上)·A(80点以 言語情報 ◎	知的技能		態度·意欲		評価割合 60% 20%						

	Ι.									ИТ		, , , ₁	子牧 クノハノ			
科目名	Ī	言語:	ΙA	_1												
科目名(英)																
単位数		4単位	立		時間数		60時間		担当者							
実施年度		2022年	度		実施時期	Ą	前期		担当者実務網	圣験						
対象学科·学年	Œ	国際ビジ	ネスね	科1年	<u> </u>		•									
授業概要							書に沿って、学 ルの文法を習得			だ知	識を適した場面で	運用で	できるよう、作文、発			
授業形式	講	義: ()	演習	習: ム	実	習:	実	技:		※ 主たる方法	: O	その他:△			
	言語 情報	知的 運動 技能	態度意欲	その他					目標	Į						
	0				日常のより幅広	い場	面で必要なN3レイ	ベルの	の文型を理解し、	自分の)言葉で説明できる					
学習目標 (到達目標)	0					-		-			切な文法の使い分	けがで	きる			
(刘廷口保/		学習した文型を使って相手や状況にふさわしい文を作ることができる														
テキスト・教材 参考図書	ľ	『新完全マスター文法 日本語能力試験N3』(スリーエーネットワーク) 数 授業項目・内容 授業外学修指示														
	回数															
	1	第1部	1課「	~とき	;]					予習	・復習、次回の小テン	ストの当	基備			
	2	第1部 2	2課「	~と関	係して」					予習	復習、次回の小テス	ストの準備				
	3	第1部 #	練習((1課・	2課)					予習	・復習、次回の小テン	ストの準	基備			
	4	第1部(3課「	比べれ	ιば…•~がい	ちば	· ん」			予習	・復習、次回の小テン	ストの準	基備			
	5	第1部 4	4課「	~ と は	は違って」						・復習、次回の小テン	ストの準	基備			
	6	第1部 #	練習((3課・	4課)					予習	・復習、次回の小テン	ストの当	基備			
	7	第1部 9	5課「	~だか	ハら」					予習	・復習、次回の小テン	ストの当	基備			
	8	第1部 6	3課「:	もし、]					予習	復習、次回の小テス	ストの準	基備			
	9	第1部 #	練習((5課・	6課)					予習	復習、次回の小テス	ストの準	基備			
	10	第1部	7課「	~だそ	そうだ」					予習	・復習、次回の小テン	ストの準	基備			
	11	第1部 8	3課「	絶対~	~ない・必ず~	とは	言えない」			予習	復習、次回の小テス	ストの準	基備			
	12	第1部 #	練習((7課・	8課)					予習	・復習、次回の小テン	ストの準	基備			
	13	第1部 3	まとめ	問題	(1課~8課)					予習	・復習、次回の小テン	ストの準	 些備			
	14	第1部	1課~	-8課	総復習					予習	·復習、授業内評価·	テストの)準備			
授業計画	15	復習·授	業内	評価っ	テスト①					予習	・復習、次回の小テ	ストの当	 L 備			
	16	第1部 9	9課「	~と望	 					予習	・復習、次回の小テン	ストの当	 些備			
	17	第1部	10課	Γ~L	たほうがいい・	~な	:さい」			予習	・復習、次回の小テ	ストの当	 基備			
	18	第1部 編	練習((9課・	10課)					予習	・復習、次回の小テン	ストの当	 些備			
	19	第1部	11課	۲~ (,	よ)うと思う」					予習	・復習、次回の小テ	ストの当	 集備			
	20	第1部	12課	「敬語	<u>-</u>					予習	・復習、次回の小テン	ストの当	 些備			
	21	第1部 編	練習((11課	•12課)					予習	・復習、次回の小テ	ストの当	 基備			
	22	第1部 3	まとめ	問題	(1課~12課)					予習	・復習、次回の小テン	ストの導	 基備			
	23	第1部 9	9課~	-12誤	果 総復習					予習	・復習、次回の小テン	ストの準	 			
	24	第1部 /	4[[\Z	ろいろ	な働きをする	助詞。]			予習	・復習、次回の小テン	ストの準	 些備			
					こうな働きをする					予習	・復習、次回の小テ	ストの当	 ^集 備			
	ـــّــــــــــــــــــــــــــــــــــ	⊢IF 6	- / / /		, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		-					• -				

麻生情報ビジネス専門学校 シラバス

	26 第1部 A~B復習				予習·復習、次回	回の小テストの準	備						
	27 第1部 C「〈こと・の〉の使い	・方」			予習·復習、次回	回の小テストの準	備						
	28 第1部 D「〈よう〉の使い方」	J			予習·復習、次回	回の小テストの準	備						
	29 第1部 9課~12課·A~C	総復習			授業内評価テス	トの準備							
	前期総復習・授業内評価テスト②												
	(1)授業内評価テストを実施で以上を下記の観点・割合で記成績評価基準は、S(90点以	評価する。 上)・A(80点以	.上)•B(70点]	以上)・C(60点	T								
評価方法		言語情報	知的技能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合						
	授業内評価テスト	0	0				60%						
	小テスト	©	0				20%						
	受講状況 © 20%												
履修上の注意	授業計画は状況により変更になることがある。												

科目名	-	言語	基础	楚 I	A-3						
科目名(英)											
単位数		2	2単位		E	時間数	308	時間	担当者		
実施年度		20	22年原	········ 芰	美	施時期	前	ī期	実務家教員 担当科目	l	
対象学科·学年	E	国際ビ	ジネス	科1年	:						
授業概要							スターする <i>ため</i> 東習も行う。	いに、専門のラ	テキストに沿って	て学習し、知	識を積み上げて
授業形式	講	義:	0	演習	習: △	実習:	実	技:	※ 主た	:る方法:〇	その他:△
	言語 情報	知的 運技能 技	重動 態度 技能 意欲	その他		ı.	<u>'</u>	目標			
	0				日本語能	力試験N1	レベルの語彙	を習得する			
学習目標		0			習得した記	吾彙を適切	な場面で運用	できるように	なる		
(到達目標)											
テキスト・教材 参考図書	ſ	新完全	ミマスク	ター語	彙 日本記	吾能力試験	N1』(スリーコ	ニーネットワー	-ク)		
	回数				授	業項目•内	容			授業外学修	指示
	1	授業概	要説明	、第1部	31章1課「性	格•人柄」•2詞	果「人間関係・付る	き合い」	次回の予習・小	テストの準備	
	2	第1部2	2章1課	「日常生	上活」				次回の予習・小	テストの準備	
	3	第1部2	2章2課	「医療∙	健康」				次回の予習・小	テストの準備	
	4	第1部3	3章「芸	術・スポ	ーツ」・4章「	教育」			次回の予習・小	テストの準備	
	5	第1部5	5章「仕₹	事」					次回の予習・小	テストの準備	
	6	第1部6	う章「メラ	ディア」					次回の予習・小	テストの準備	
松光红雨	7	第1部7	7章1課	「経済・	産業」•復習				次回の予習・授業	業内評価テスト(の準備
授業計画	8	第1部7	7章2課	「政治・	法律•歴史」	授業内評価	テスト①		次回の予習・小	テストの準備	
	9	第1部7	7章3課	「社会問	問題」				次回の予習・小	テストの準備	
	10	第1部8	3章1課	「自然・	地形」・2課「	技術」			次回の予習・小	テストの準備	
	11	第1部9	9章1課	「時間・	空間」				次回の予習・小	テストの準備	
	12	第1部9	9章2課	「関係・	変化」				次回の予習・小	テストの準備	
	13	第2部1	1章1課	「名詞」					次回の予習・小	テストの準備	
	14	第2部1	1章2課	「動詞」					次回の予習・授業	業内評価テストの	の準備
	15	復習•揺	受業内部	平価テス	.h2						
	以」	上を下記	記の観	点:害	引合で評価	する。	・スト、課題を 、 、 よ上)・B(70点		点以上)・D(59	点以下)とす	· ā .
						言語情報	知的技能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合
評価方法		授業	内評	価テス	\ -	0	0				60%
			小テス	スト		0	0				20%
			受講物	犬況					0		20%
履修上の注意	#	受業計i	画はお	状況に	より変更に	なることが	ぶある 。				

科目名	言語基礎Ⅰ』	A-2													
科目名(英)															
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者											
実施年度	2022年度	実施時期	—————— 前期	担当者実務	経験										
対象学科・学年	 国際ビジネス科1年														
授業概要	N2レベルの語彙の意	意味理解、用法を	身に付け、実	生活の中で運用	月できるようにな	ぶる 。									
授業形式	講義: 〇 演習	g: Δ 実習	習:	 実技:	※ 主た		その他:△								
	言語 知的 運動 態度 情報 技能 技能 意欲 その他			目標	<u> </u>										
		N2レベルの語彙?	を習得すること	ができる											
学習目標	O	習得した語彙を通	動切な場面で 遺	囲できるように	なる										
(到達目標)															
テキスト・教材 参考図書	『新完全マスター 語	吾彙N2』(スリーエ	ニーネットワーク	")											
	回数	授業項目·	· 内容		1	授業外学修	指示								
	1 授業概要説明 第18	 部 1章 人間: 1課													
	2 第1部 1章 人間:	2課・3課			「人間」に関する	 語彙の復習									
	3 第1部 2章 生活:														
	4 第1部 2章 生活:				「生活」「趣味・娯	楽北に関する語	彙の復習								
	5 第1部 4章 旅行:				「旅行」に関する										
	6 第1部 5章 教育と				「教育と仕事」に		7習								
	7 第1部 6章 メディブ				「メディア」に関す		, II								
授業計画	8 授業内評価テスト①				7 7 17 31-1217										
	9 第1部 7章 社会:														
	10 第1部 7章 社会:				「社会」に関する	三番の復習									
	11 模擬試験問題	Opt 于pt			「在五」に戻りの	山来が反日									
	12 第1部 8章 科学:	1理•9理			「科学」に関する	三番の復習									
	13 第1部 9章 抽象概				「抽象概念」に関		য়								
	14 前期総復習	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,			授業内評価テス		-								
	15 授業内評価テスト②)			22/3/ 74/ 12/ / /	. 1 1110									
				+ ch +											
	(1)授業内評価テストを 以上を下記の観点・割 成績評価基準は、S(9)	合で評価する。			点以上)・D(59	点以下)とす	·る。								
=a;		言語情	報 知的技能	能 運動技能	態度•意欲	その他	評価割合								
評価方法	授業内評価テス	ا ا	0				60%								
	小テスト	0	0				20%								
	受講状況				0		20%								
履修上の注意	授業計画は状況に。	より変更になるこ	とがある。		'										

科目名	-	言語基	甚碛	ŧΙ	A-1																		
科目名(英)																							
単位数		2単位	<u>ታ</u>		時間数		30時間		担当者														
実施年度		2022年	度		実施時期	1	前期	:	担当者実務網	圣験													
対象学科・学年	[国際ビジス	ネス科	斗1年	<u> </u>																		
授業概要	2		々な									句を効率よく覚 を身につけるこ											
授業形式	講	義: ()	演 [:]	習: 〇	実習:		実技	<u> </u>	※ 主 <i>t</i> :		その他:△											
	言語情報	知的 運動 技能	態度意欲	その他					目標	Į.													
	0				日常生活に征	殳立つ語	吾彙を見て	理解:	ができ、運用	できる。													
学習目標	0				使用場面にお	合わせて	で適切な語:	彙を達	選び、日常的	りな会話がで	きる。												
(到達目標)	○ 前後の文脈から空所に入る語を選ぶことができる。																						
テキスト・教材 参考図書	ľ	新完全マ	スター	- 語	彙N3』スリーコ	ニーネット	・ワーク出版	201	8														
	回数															型数 授業項目·内容							
	1	第1部 1部	果 人間	間関係	1:家族と友達、	性格				言葉の予習(1時間)													
	2	第1部 2部	果 人間	間関係	2:付き合い、気		言葉の予習(1時	詩間)															
	3	第1部 3部	果 生活	51:毎	毎日の生活		言葉の予習(18	詩間)															
	4	第1部 4部	果 生活	52:食	 g生活		言葉の予習(18	············· 持間)															
	5	第1部 5部	果 生活	53:家	₹		言葉の予習(18	·····································															
	6	第1部 6部	果体1	:美容	 F·健康					言葉の予習(1時													
	7	第1部 7部	果体2	:病気	ī.					授業内評価テス	トのための復習	!(2時間)											
授業計画					· /第1部 8課 趣味	味と旅行1	:スポーツ•芸	術		言葉の予習(18	非間)												
	<u> </u>				イ2:ファッション					言葉の予習(1時													
	<u> </u>			-	ハン・ファッション 旅行3:旅行					言葉の予習(18													
	-				・	≒ \				言葉の予習(18													
					学校生活(大学)					言葉の予習(1時													
		第1部 13								言葉の予習(18													
	14	第1部 14	課 仕	事2:	コンピューター・垂	郵便・電話	など			授業内評価テス	トのための復習	(2時間) ————————————————————————————————————											
	15	授業内評	価テス	(+2)																			
	以上	上を下記(の観り	点•害	を実施する。 引合で評価する 90点以上)・A	る。				点以上)•D(59	点以下)とす	- る。											
評価方法					言	語情報	知的技能	能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合											
11川八八八		授業内	評価	テフ	۲ ト	0	0					60%											
			トテス			0	0					20%											
		受	講状	況						0		20%											
履修上の注意	持	受業計画	は状	況に	より変更にな	る場合だ	がある。																

科目名	i	言語応用 I A-3														
科目名(英)																
単位数		2単位	立		時間都	数	30時間		担当者							
実施年度		2022年	F度		実施時	期	前期		担当者実務網	圣験						
対象学科・学年	[3	国際ビジ	ネスを	科1年												
授業概要		1レベル 5。	の聴	読解	問題に取り	り組み、多	実生活の幅点	太い	場面で必要な	に読み聴きの:	力を習得する	ことを目的とす				
授業形式	講	義: ()	演 [:]	習: △	実習	:	実担	支 :	※ 主た	-る方法:O	その他:△				
	言語 情報	知的 運動 技能	態度意欲	その他		•	'		目標							
	0				N1レベル(D語彙や	表現を習得	₺し、1	使用言語域を	拡大すること	:ができる。					
学習目標		0			耳からの情	青報だけ	で話の要点	を掴	み、内容を理	解し適当な原	ち答をすること	: ができる。				
(到達目標)		0			文章を正し	く読み取	対、文脈や	話の	意図が理解	できるようにな	する 。					
			・リル&ドリル日本語能力試験N1聴解・読解』(ユニコム)													
テキスト・教材 参考図書	ſ	ドリル&	ドリノ	レ日ネ	卜語能力試	験N1聴	解•読解』(コ	1==	(كاد							
	回数	授業項目・内容 授業外学修指示														
	1	授業概要	更説明	,読	 解:内容理解	(短文)第	第1回		授業の復習およ	び次回の予習						
	2	聴解:課	題理	解第	回、読解:			授業の復習およ	び次回の予習							
	3	聴解:ポ	イント	·理解	第1回、読解	: 内容理:	解(長文)第1	回、	————— 第2回	授業の復習およ	び次回の予習					
	4	聴解:概	要理	解第 つ	 回、読解:糸	· · · 合理解第	第1回、第2回]		授業の復習およ	 :び次回の予習					
	5	聴解:即	時応	答第	回、読解: 3	張理解領	第1回、第2回]		授業の復習およ	び次回の予習					
							索第1回、第2	-		授業の復習および次回の予習						
	7				回②、読解					授業内評価テス						
授業計画	_	授業内部				ים נע נעל נים	1 6 207			授業の復習およ						
						¬灾珊 <i>級(</i>	(短文)第2回			授業の復習およ						
	_															
							解(中文)第2			授業の復習およ						
							(長文)第3回			授業の復習およ	び次回の予習					
	12	聴解:即	時応	用第2	2回、読解∶統	充合理解3	3回、情報検索	を第3	3回	授業の復習およ	び次回の予習					
	13	聴解:統	合理的	解第2	2回①、読解	:主張理解	解第3回、第4	10		授業の復習およ	び次回の予習					
	14	聴解:統	合理的	解第2	2回②、読解	:前期後	半まとめ			授業内評価テス	ト準備					
	15	授業内評	平価テ	スト	2											
	以上	を下記(の観	点:	引合で評価	する。	・テスト、課題 以上)・B(70			氖以上)•D(59	点以下)とす	る。				
評価方法						言語情報	日 知的技	能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合				
肝ਘ刀冱		授業内	的評价	五テノ	47	0	0					60%				
		/]	トテス	۱,		0	0					20%				
		受	講状	況						0		20%				
履修上の注意	扬	受業計画	は状	況に	より変更に	なること	がある。									

科目名	-	言語。		Ţ I	A-2										
科目名(英)															
単位数		2単化	<u>立</u>		時間	 引数		30時間	П	担当者					
実施年度		2022年	F度		実施			 前期		担当者実務網	圣験				
対象学科・学年		 国際ビジ	ネスす	—— 科1年			_								
授業概要		 2レベル ら。	の聴	読解	問題に取	ひ組み、	、実生	上活の幅広	ない均	易面で必要な	よ読み聴	きのか	力を習得する	ことを目的とす	
授業形式	講	義:	0	演 [:]	習: 🗸	文	習:		実技	<u> </u>	*	主た	:る方法:〇	その他:△	
学習目標(到達目標)	言語報	技能													
テキスト・教材 参考図書	ſ	ドリル&	ドリハ	ν E	本語能力]試験N	2 []	聴解∙読解	¥]](:	ユニコム)					
	回数														
	1	聴解:課	題理係	解第1	回 読解:	短文1~	3番				新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること	
	2	聴解:ポ	イント	·理解	第1回 読	解:中文1		新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること				
	3	聴解:概	要理例	解第1	回 読解:	統合理解	⋥1~2	2番			新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること	
	4	聴解:即	時応	答第1	回 読解:	主張理解	⋥1~2	2番			新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること	
	5	聴解:統	合理的	解第1	回 読解:	情報検索	₹1~2	2番			新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること	
	6	聴解:課	題理	解第2	2回 読解:	短文4~	6番				新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること	
授業計画	7	授業内記	平価テ	スト	D										
AHIT	8	聴解:ポ	イント	理解	第2回 読	解:中文4	4~6₹	*			新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること	
	9	聴解:概	要理係	解第2	2回 読解:	統合理解	≆3∼ 4	4番			新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること	
	10	聴解:即	時応	答第2	2回 読解:	主張理解	≆3∼ 4	4番			新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること	
	11	聴解:統	合理的	解第2	2回 読解:	情報検索	₹3~4	4番			新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること	
	12	聴解:課	題理係	解第3	3回 読解:	短文7~	10番				新出語彙	等は必	ず家で復習をす	けること	
	13	聴解:ポ	イント	理解	第3回 読	解:中文7	7~9番				新出語彙	等は必	ず家で復習をす	すること	
	14	聴解:概	要理例	解第3	3回 読解:	主張理解	 45∼6	3番			新出語彙	等は必	ず家で復習をす	すること	
	15	授業内認	平価テ	スト	2										
	以上	を下記	の観	点:	割合で評価	曲する。 .)・A(80	点以	スト、課題 上)・B(70			点以上)・	D(59	点以下)とす	- る。	
評価方法		1=2 210	L == /-		- 1	言語情	報	知的技能	能	運動技能	態度•意	急欲	その他	評価割合	
		授業内	り評値 トテス		<	<u> </u>		© ©	-					20%	
			:講状			₩		<u> </u>			0			20%	
履修上の注意	扬	受業計画	は状	況に	より変更	になるこ	とが	ある。			<u> </u>			l	

科目名	i	言語応	。 用 I	A-1											
科目名(英)															
単位数		2単位	Ī	時間数	Į .	30時間		担当者							
実施年度		2022年	 度	実施時	期	前期		担当者実務網	圣験						
対象学科・学年	[3	国際ビジネ	ペス科1年	<u> </u>											
授業概要	7	ま、語彙を	確認した		とで読解						EN3レベルの文 D聴解、読解ス				
授業形式	講	義: C	演	習: 〇	実習:		実技	支:	※ 主た	:る方法:〇	その他:△				
学習目標 (到達目標)	言語情報	国標 国標 日標 日常生活に役立つ、簡単な聞き取りや説明を聞いて、内容が説明できる。 「													
テキスト・教材 参考図書	ſ	ドリル&ド	リル日本	語能力試験N	3聴解▪読	解』(ユニコム	ム)								
	回数														
	1	授業概要認	说明、聴解	:課題理解第1[回╱読解∶₽	内容理解(短戈	文)第1	回	言葉、表現の復習(1時間)						
	2	聴解:ポイン	ント理解第	1回/読解:内	容理解(中)		言葉、表現の復	習(1時間)							
	3	聴解:概要	理解第1,2	回/読解:情報	検索第1回	1			言葉、表現の復	習(1時間)					
	4	聴解:発話	表現第1回]/読解:内容理	醒(長文)	第1回			言葉、表現の復	習(1時間)					
	5	聴解:即時	応答第1回]/読解:内容理	理解(短文)	第2回			言葉、表現の復	習(1時間)					
	6	聴解:課題	理解第2回]/読解:内容理	理解(中文)	第2回			言葉、表現の復	習(1時間)					
授業計画	7	聴解:ポイン	ント理解第	2回/読解:情	報検索第2[□			授業内評価テス	トのための復習	(2時間)				
汉未 前	8	授業内評価	西テスト①	/聴解:概要理	解第3,4回				言葉、表現の復	習(1時間)					
	9	N3模擬試馬	澰 読解実	施、解説					言葉、表現の復	習(1時間)					
	10	聴解:発話	表現第2回]/読解:内容理	理解(長文)	第2回			言葉、表現の復	習(1時間)					
	11	聴解:即時	応答第2回]/読解:内容理	理解(短文)	復習			言葉、表現の復	習(1時間)					
	12	聴解:課題	理解第3回]/読解:内容理	里解(中文)	復習			言葉、表現の復	習(1時間)					
	13	聴解:ポイン	ント理解第	3回/読解:内	容理解(長)	文)復習			言葉、表現の復	習(1時間)					
	14	聴解:概要	理解第5回]/読解:情報植	食索復習				授業内評価テス	トの復習(2時間)				
	15	授業内評価	西テスト②						_						
	以上	上を下記∂	り観点・割	を実施する。 割合で評価す 90点以上)・	゚ゟ。				点以上)・D(59	点以下)とす	ర .				
評価方法					語情報	知的技	能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合				
			評価テス	スト	0	0					60%				
											20%				
履修上の注意	拉	受業計画に	ま状況に	より変更にな	なることか	 がある。									

科目名	ì	通訳:	ΙA													
<u></u> 科目名(英)																
単位数		2単位	<u> </u>		時間数		30時間		担当者							
		2022年	 F度		実施時期	Ą	前期	#	 旦当者実務#	圣験						
	<u> </u>	国際ビジ	ネス和	斗1年	<u> </u>											
授業概要	E	日本語を	聞く、	話す	て、書くに焦点	きあて、	初歩的な通	通訳ス	くキルを学え	•• •••						
授業形式	講	義: 4	Δ	演	習: 0	実習:		実技	:	※ 主#	たる方法:○	その他:△				
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的 遠動 技能														
テキスト・教材 参考図書		│ 講師作成	プリン	ント												
	回数	授業項目•内容 授業外学修指示														
	1	原稿用	紙の化	使い	方											
	2	自己紹:	介①													
	3	自己紹:	介②													
	4	私の国	1													
	5	私の国	2													
	6	私の1日	11													
授業計画	7	私の1日	12							授業内評価テス	く ト準備					
汉木町四	8	授業内	評価:	テス	本 趣味 ①											
	9	趣味②														
	10	日本での	の食気	生活	1											
	11	日本での	の食気	生活	2											
	12	日本に	来てお	おどろ	ろいたこと①											
	13	日本に	来てお	おどろ	ろいたこと②											
	14	もし1,00	0万円	円あ っ	ったら					授業内評価テス	く ト準備					
	15	授業内	評価:	テス	\2											
	以上	を下記(の観	点•害	を毎回実施す 引合で評価す 90点以上)・ <i>A</i>	る。										
評価方法						語情報	知的技能	能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合				
		授業内			۲ ト	0	0	_				60%				
	小テスト ◎ ◎ 受講状況 ◎											20%				
履修上の注意	扬	受業計画	は状	況に	より変更にな	こことが	ある。			<u> </u>						

科目名	ŀ	ごジオ	トス		ミュニク	-ーシ	ョン Ι	Α							
科目名(英)															
単位数		2単	位		時間	数	30時	間	;	担当者					
実施年度		20223	年度		実施問	- 期		——— 阴	担当	者実務総	圣験				
対象学科・学年		 国際ビジ	ネスを	—— 科1年	<u> </u>										
授業概要					ジネスの場 を身に付け、				ーズに	業務を行	うために	必要な	基本的な敬	語表現、ビジネスマ	
授業形式	講	義:	0	演	習: △	実習	3 : 3 :	実	技:		*	主た	る方法:○	その他:△	
	言語 情報	知的 運動技能 技能		その他						目標					
	0				日本でのビジ	ジネスに必	要な語彙、	表現を覚	覚え、使月	用できる					
学習目標		日本の表された会話に対し、適切な応答ができる													
(到達目標)		適切な敬語、マナー、日本の習慣、慣習も踏まえた発話ができる													
テキスト・教材 参考図書	ſ														
	回数														
	1														
	2	1 自己紹介、授業概要説明、第1課「紹介する」 2 第1課「紹介する」													
	3	第1課	「紹介	する							スキットの)準備			
	4	第1課	「紹介	する	 I						第2課の	「ことばぃ	を調べる		
		第2課		-							210-2011-10				
		第2課													
		第2課									スキットの	\##			
授業計画	<u> </u>												+== × 7		
	ļ.	第2課									第3課の	ことは」	を調べる		
	Ļ.				でる・受ける」										
	10	第3課「	電話を	らかけ	る・受ける」										
	11	第3課「	電話を	らかけ	でる・受ける」						スキットの)準備			
	12	第3課「	電話を	らかけ	でる・受ける」						第4課の	「ことば」	を調べる		
	13	第4課「	注意を	きする	・注意を受け	ける」									
	14	第4課「	注意を	きする	・注意を受け	ける」					スキットの)準備			
	15	第4課「	注意を	きする	•注意を受け	ける」					定期試験	のための	の復習		
	期記 以上	忧験(筆記 ≟を下記の	l)を実 D観点	施す ・割る		5 。								~を実施する (4)定	
評価方法						言語情報	報 知的	技能	運動	协技能	態度•カ	意欲	その他	評価割合	
H IMI / J /AA			E期討			<u> </u>		<u></u>						40%	
		授業内評価テスト						0						20%	
			小テス			0		0			^			20%	
		<u> </u>	き講状	沈							0			20%	
履修上の注意	擅	受業計画	ゴは状	況に	より変更に	こなること	とがある。								

科目名		日本語	吾쉵	と 力	試験対	策A-	-3								
科目名(英)		6単位 時間数 90時間 担当者 2022年度 実施時期 前期 担当者実務経験													
単位数		6単位	立		時間数		90時間		担当者						
実施年度		2022年			実施時期	1	前期		担当者実務網	圣験					
対象学科 - 学年	[国際ビジ	ネスを	科1年											
授業概要	Į	3常的な 里解でき [。] 旨す。	場面 るよう	だけうにな	ではなく、幅成る。多くの練	ない場面 習問題:	面、話題につ をこなすこと	ついとに	て書かれた親よって、解きる	所聞の論説、 ちのスキルを	評論など難易 身につけ、JL	度の高い文章が PTN1合格を目			
授業形式	講	義: (0	演	習: △	実習:		実	支:	※ 主#	たる方法∶○	その他:△			
	言語 情報	知的 運動 技能							目標						
	0				日常的な語彙だ	ごけではな	く、社会、経済	斉∙産	業、身体・健康な	など幅広い分野で	で使われる語彙の	D意味が説明できる。			
学習目標 (到達目標)		0			事柄を説明した	り、主観を	を述べたりする	場合	↑の表現を学習し	、適切な文法形	式が判断できる	0			
(DIELIK)		0			説明文、指示文	、評論や	エッセイなどを	き読ん	で話の流れや記	羊細な内容につい	ヽて答えることが	できる。			
テキスト・教材 参考図書															
	回数														
	1-3	授 授業項目・内容 授業外学修指示 3 N2模擬試験・解説/N1の概要・授業概要 「20日で合格N1」第1日予習(1時間)													
	4-6	3 N2模擬試験・解説/N1の概要・授業概要 「20日で合格N1」第1日予習(1時間) 5 N1文字・語彙文法第1日/読解1章1「指示詞の内容」 「20日で合格N1」第2日予習(1時間)													
	7-9														
	10-12														
	13-15	-12 N1文字・語彙文法第3日/読解1章3「言葉の意味」 「20日で合格N1」第4日予習(1時間) -15 N1文字・語彙文法第4日/読解1章4「話の展開」 「20日で合格N1」第5日予習(1時間)													
	16-18	N1文字·i	——— 吾彙文	 [法第!	5日/読解1章5「丿	人物の気持	——— 持ち」			「20日で合格N1	」第6日予習(1時	持間)			
15 #L T	19-21	N1文字·i	 吾彙文		6日/読解1章6「玛	里由や根括	処」			「20日で合格N1 トのための復習		特間)授業内評価テス			
授業計画	22-24	N1文字·i	吾彙文	法第	7日/授業内評価	ニテスト						持間)			
	25-27	N1文字·i	吾彙文	 [法第8	3日/読解1章7「슄	全体の内容	容」			「20日で合格N1	」第9日予習(1時	持間)			
	28-30	N1文字·i	 吾彙文		9日/読解1章8「訇	を 者が言し	いたいこと」			「20日で合格N1		時間)			
	31-33	N1文字·i	 吾彙文	 [法第1	10日/読解1章9「	連絡文」				言葉、表現の復	習(1時間)				
	34-36	N1模擬試	験、解	军説						「20日で合格N1		時間)			
	37-39	N1文字·i	 吾彙文	 [法第1	11日/読解1章10	「情報検索	 索」			「20日で合格N1		時間)			
	40-42	N1文字·i	吾彙文	法第1	12日/読解2章長	文A 1「解	說」読解復習	習		「20日で合格N1		時間)			
	43-45	総復習								定期試験のため	の復習(2時間)	1			
	(1)/	トテストを	数回	 実施 ⁻	 する (2)宿題を	数回課3	ナ(3)授業内	与評	 西テストを実施	する(4)定期記	は験(筆記)を実	 E施する (5) 受講			
	状汤 以上	は出席が	大況、)観点	授業! •割台	態度、課題提出 で評価する。 点以上)・A(80	出状況を	観点とする								
海伊士 壮					言	語情報	知的技	能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合			
評価方法		定	期討	験		0	0					40%			
		授業内	习評估	西テフ	۲۲	0	0					20%			
		/]	トテス	<u>۲</u>		0	0					20%			
		受	講状	さ況						0		20%			
履修上の注意	挡	受業計画	は状	況に	より変更にな	ることだ	がある。								

単位数 6単位 時間数 90時間 担当者 担当者 対象学科・学年 国際ビジネス科1年 日常的な場面だけではなく。より幅広い場面(新聞記事・平易な評論など)での日本語の表現が理解できるような。多くの練習問題をこなすことによって、解き方のスキルを身につけ、JLPTN2合格を目指す。 タス 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東	科目名	F	日本語	吾能	力	試験対	策A-	-2					
大き	科目名(英)												
###	単位数		6単位	ኒ		時間数		90時間		担当者			
投業報要	実施年度		2022年	度		実施時期]	前期		担当者実務網	圣験		
接乗郵要	対象学科・学年	Œ	 国際ビジス	ネス系	斗1年								
### 日報 数単 数単 数単 数単 数単 数目 数目 数目	授業概要	15	こなる。										が理解できるよう
学習目標	授業形式	講	義: ()	演	習: △	実習	:	実技	支:	※ 主 <i>t</i> :	≿る方法:○	その他:△
学習目標		言語 情報	知的 運動 技能	態度 意欲	その他		1.			目標			
(割達目標)		0				社会•自然科学	、環境、流	産業技術、医療	聚健康	₹、教育、文化芸	術、歴史などで(吏われる語彙の 意	意味が説明できる。
日本語能力試験20日で合格N2文字・語彙・文法[改訂版]』(2018年/国書刊行会) - 『日本語能力試験20日で合格N2文字・語彙・文法[改訂版]』(2018年/国書刊行会) - 『日本語能力試験問題集N2続解必修パターン』(2017年/J/)サーチ出版) 投業項目・内容 授業外学修指示 投業が多く 投票が多く 上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 と明試験 全の 上のおよれ 上のよりを 上のよ			0			事柄を説明した	り、主観	を述べたりする	場合	・の表現を学習し	、適切な文法形	式が判断できる。)
日本語能力試験20日で合格N2文字・語彙・文法[改訂版]』(2018年/国書刊行会) - 『日本語能力試験20日で合格N2文字・語彙・文法[改訂版]』(2018年/国書刊行会) - 『日本語能力試験20日で合格N2文字・語彙・文法[改訂版]』(2018年/国サーチ出版) 回数	(判在日1末/		0				、評論や	エッセイなどを	読ん	で因果関係や理	里由、話の流れな	どを理解し、内容	字について答えること
日本語能力試験問題集N2誘解必修バターン』(2017年/Jリサーチ出版) 投業外学修指示 投業項目・内容 投業外学修指示 投業外学修指示 投業外学修指示 投業外学修指示 投業外学修指示 (20日で合格N2」第1日予習(1時間) (20日で合格N2」第1日予習(1時間) (20日で合格N2」第2日予習(1時間) (20日で合格N2」第2日予習(1時間) (20日で合格N2」第3日予習(1時間) (20日で合格N2」第3日予習(1時間) (20日で合格N2」第3日予習(1時間) (20日で合格N2」第3日予習(1時間) (20日で合格N2」第3日予習(1時間) (20日で合格N2」第3日予習(1時間) (20日で合格N2」第3日予習(1時間) (20日で合格N2」第3日予習(1時間) (20日で合格N2」第5日予習(1時間) (20日で合格N2)第5日予習(1時間) (<i>x</i>							
1-3 提展試験(実力チェック)・JLPTの概要・始強法について												行会)	
### ### ### ### ### ### ### ### ### ##		回数				授業項	頁目・内	容				授業外学修持	指示
10-12 N2文字・話彙文法「第2日」 読解 章2「事実関係」		1-3	模擬試験	実力	チェッ	ク)・JLPTの概要	₹∙勉強法	まについて			「20日で合格N2	」第1日予習(1時	:間)
10-12 N2文字・語彙文法[第3日]		4-6	N2文字·語	全彙主	法「第	[1日]/読解1章	1「指示詞	司の内容」			「20日で合格N2	」第2日予習(1時	:間)
13-15 N2文字・語彙文法「第4日」/ 読解1章4「話の展開」		7-9	N2文字·訊	全集	法「第	[2日]/読解1章	2「事実]	関係」			「20日で合格N2	」第3日予習(1時	間)
16-16 N2文字・語彙文法文「第5日」		10-12	N2文字·語	全集	法「第	[3日]/読解1章	3「言葉の	の意味」			「20日で合格N2		間)
19-21 N2文字・語彙文法「第6日」 読解1章6「理由や根拠」		13-15	N2文字·語	全文	法「第		4「話の原	展開」			「20日で合格N2		:間)
19-21 N/2 年・語楽又法 第6日 25 時 単日・根拠		16-18	N2文字·訊	重彙文.	法文 [[]	第5日」/読解1	章5「人物	勿の気持ち」			「20日で合格N2		:間)
22-24 N2文字・語彙文法「第7日」/ 授業内評価テスト		19-21	N2文字·訊	重彙文	法「第		6「理由な	・根拠」					間)/授業内評価テ
22-30 N2文字・語彙文法「第9日」/読解1章8「筆者が言いたいこと」	授業計画	22-24	N2文字·認	重彙文:	法「第	57日」/授業内部	平価テス	-					:間)
31-33 N2文字・語彙文法「第10日」/読解1章9「連絡文」 言葉、表現の復習(1時間) 34-36 N2 模擬試験、解説 「20日で合格N2」第11日予習(1時間) 17-39 N2文字・語彙文法「第11日」/読解1章10「情報検索」 「20日で合格N2」第12日予習(1時間) 40-42 N2文字・語彙文法「第12日」/読解2章長文A 1「解説」 「20日で合格N2」第13日予習(1時間) 20日で合格N2」第13日予習(1時間) 20日で合格N2」第12日予習(1時間) 20日で合格N2」第12日で会格N2』第12日で会格N2』第12日で会格のN2』第12日で会格N2』第12日で会格N2』第12日で会格N2』第12日で会格N2』第12日で会格N2』第12日で会格N2』第12日で会格N2』第12日で会格N2』第12日で会格N2』第12日で会格N2』第12日で会格のN2』第12日で会格のN2』第12日で会格のN2』第12日で会格N2』第12日で会格のN2』		25-27	N2文字·語	重彙文:	法「第	[8日]/読解1章	7「全体の	カウン			「20日で合格N2		:間)
34-36 N2 模擬試験、解説		28-30	N2文字·語	重彙文:	法「第		8「筆者な	が言いたいこと]		「20日で合格N2		———————— 時間)
1-39 N2文字・語彙文法「第11日」		31-33	N2文字·語	重彙文:	法「第	 [10日]/読解1章	59「連絡	··文」			言葉、表現の復	習(1時間)	
### 40-42 N2文字・語彙文法「第12日」/読解2章長文A 1「解説」 「20日で合格N2」第13日予習(1時間)		34-36	N2 模擬記	式験、角	解説						「20日で合格N2		
### ### #############################		37-39	N2文字·語	三	法「第		⊉10「情幸	服検索」			「20日で合格N2		
(1)小テストを数回実施する(2)宿題を数回課す(3)授業内評価テストを実施する(4)定期試験(筆記)を実施する(5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする以上を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		40-42	N2文字·語	東文	法「第		是 長文A	1「解説」			「20日で合格N2		 時間)
おいけい 大沢は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		43-45	総復習								定期試験のため	の復習(2時間)	
定期試験 © 40% 授業内評価テスト © 0 小テスト © 20% 受講状況 © 20%		状況 以上	!は出席状 .を下記の	況、 観点	受業! •割台	態度、課題提出 で評価する。	状況を	観点とする					施する (5) 受講
定期試験 © 40% 授業内評価テスト © 20% 小テスト © 20% 受講状況 © 20%	評価方法					言	語情報	知的技	能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合
小テスト © © 20% 受講状況 © 20%	H I IMA S SAS							+					
受講状況 ◎ 20%						1							
							0	(O)			<u> </u>		
履修上の注意 授業計画は状況により変更になることがある。	履修上の注意	抖				より変更にな	ること	 がある。					ZU%

	Ι.	日本語能力試験対策A-1													
科目名		6単位 時間数 90時間 担当者													
科目名(英)		6単位 時間数 90時間 担当者 2022年度 実施時期 前期 担当者実務経験 国際ビジネス科1年													
単位数		6 <u>i</u>	単位			時間数		90時間		担当者					
実施年度		202	2年度	隻		実施時期	 月	前期		担当者実務網	圣験				
対象学科・学年	3	国際ビ	ジネ	ス科	11年										
授業概要						3の合格を目 目的とする。	標と	した対策授業	を行	う。日常的な	場面	で使われる日本語	吾を理解し、運	用力を	
授業形式	講	義:	0		演	習: △	実	習:	実担	支:		※ 主たる方法:	〇 その他:	Δ	
	言語 情報		運動 怠技能 意	態度 意欲	その他					目標					
学 邓日福	0					N3の問題形	式を	理解し、解答	に必	要な文字語舅	をやり	文法表現を覚える	0		
学習目標 (到達目標)		0				既習の知識	を応	用し、的確に係	解答	することがで	きる。				
	_														
テキスト・教材 参考図書								、字・語彙・文》 ピードマスター							
	回数		学修指示												
	1	授業	概要該	らない語彙等はノート こと(1時間)											
	2	読解	ウォー	らない語彙等はノート こと(1時間)											
	3	文法1	こまとめ、必ず家で	で復習を											
	4	文字記	こまとめ、必ず家で	で復習を											
	5	読解	短文	(1)	こと(1時間) らない語彙等はノート こと(1時間)	こまとめ、必ず家で	で復習を								
	6	文法1	₩3 第	[2日	-C (1所間) らない語彙等はノート こと(1時間)	こまとめ、必ず家で	で復習を								
	7	文字記	語彙N	13 3	第3日						わから	-C (1所間) らない語彙等はノート こと(1時間)	こまとめ、必ず家で	で復習を	
	8	読解	中文	(1)	~ (3)					わから	- <u></u> にいい間が らない語彙等はノート と(1時間)	こまとめ、必ず家で	で復習を	
	9	文法1	₩3 第	₹3日	1						わから	、いう問) らない語彙等はノート(こと(1時間)	こまとめ、必ず家で	で復習を	
	10	模擬語	試験①	1)							わから	- <u></u> にいい間が らない語彙等はノート と(1時間)	こまとめ、必ず家で	で復習を	
	11	模擬詞	試験①	1)							わから	-C(1时間) らない語彙等はノート こと(1時間)	こまとめ、必ず家で	で復習を	
	12	模擬詞	試験①	1) #	解答解	————— 解説					わかり	<u>-こ(「時間)</u> らない語彙等はノート こと(1時間)	こまとめ、必ず家で	で復習を	
	13	文字語	語彙N	13 3	第4日						わから	らない語彙等はノートロ	こまとめ、必ず家で	で復習を	
	14	読解	長文	(1)) ~ (2)					わから	こと(1時間) らない語彙等はノート こと(1時間)	こまとめ、必ず家で	で復習を	
		文法1									わから	らない語彙等はノートロ	こまとめ、必ず家で	で復習を	
	16	文字記	語彙N	13 3	第5E	 B					わから	こと(1時間) らない語彙等はノート こしく1時間)	こまとめ、必ず家で	で復習を	
)~(3)					わかり	こと(1時間) らない語彙等はノート - 1./4世間)	こまとめ、必ず家で	で復習を	
		文法1									わから	こと(1時間) らない語彙等はノート(こまとめ、必ず家で	で復習を	
		文字記									わから	こと(1時間) らない語彙等はノート	こまとめ、必ず家で	で復習を	
		読解									わから	こと(1時間) らない語彙等はノート	こまとめ、必ず家で	で復習を	
		文法1									わから	こと(1時間) らない語彙等はノート	こまとめ、必ず家	で復習を	
		文字記									わから	こと(1時間) らない語彙等はノート	こまとめ、必ず家で	で復習を	
授業計画		授業				-					わから	こと(1時間) らない語彙等はノート(こまとめ、必ず家で	で復習を	
												こと(1時間) らない語彙等はノート	こまとめ、必ず家で	で復習を	
		文法1									するこ	こと(1時間) らない語彙等はノート			
		文字記									するこ	こと(1時間) らない語彙等はノート			
	26	読解	中文	(4)) ~ (6)						こと(1時間)	5-2-7-A	- 12 - 12	

麻生情報ビジネス専門学校 シラバス

	27 文法	N3 第8日				わからない語彙: すること(1時間)	等はノートにまと	:め、必ず家で復習を			
	28 文字	² 語彙N3 第9日					等はノートにまと	:め、必ず家で復習を			
	29 読角	♀ 長文(3)~(4)				わからない語彙	等はノートにまと	:め、必ず家で復習を			
	30 文治	 N3 第9日					等はノートにまと	:め、必ず家で復習を			
	31 模擬					すること(1時間) わからない語彙	等はノートにまと	:め、必ず家で復習を			
		F試験②				すること(1時間)	等はノートにまと	:め、必ず家で復習を			
						すること(1時間) わからない語彙	等はノートにまと	め、必ず家で復習を			
		是試験② 解答解説 				すること(1時間)		:め、必ず家で復習を			
	34 文字	型語彙N3 第10日				すること(1時間)					
	35 読角	肾情報検索(4)~(6)				すること(1時間)		:め、必ず家で復習を			
	36 文法	N3 第10日		わからない語彙: すること(1時間)	等はノートにまと	:め、必ず家で復習を					
	37 文字	≅語彙N3 第11日		わからない語彙: すること(1時間)	等はノートにまと	:め、必ず家で復習を					
	38 読角	單 短文(11)~(15)			わからない語彙: すること(1時間)	•	め、必ず家で復習を				
	39 文法	N3 第11日			わからない語彙等はノートにまとめ、必 すること(1時間)						
	40 文字	型語彙N3 第12日					等はノートにまと	:め、必ず家で復習を			
	41 読角	♀ 中文(7)~(9)					等はノートにまと	:め、必ず家で復習を			
	42 文法	EN3 第12日					等はノートにまと	:め、必ず家で復習る			
	43 文字	 ヹ語彙N3 第13日					を 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、	:め、必ず家で復習る			
	44 文法	 ₹N3 第13日					:め、必ず家で復習る				
	45 前其	—————————————————————————————————————						:め、必ず家で復習を			
	状況は出 以上を下	ストを数回実施する (2)宿 は席状況、授業態度、課 記の観点・割合で評価す 「基準は、S(90点以上)・	圓提出状況を観 ├る。	点とする		する (4) 定期記		淫施する (5)受講			
評価方法			言語情報	知的技能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合			
計巡刀法		定期試験	0	0				40%			
	授	業内評価テスト	0	0				20%			
		小テスト	0	0				20%			
		受講状況			0		20%				

履修上の注意

授業計画は状況により変更になることがある。

科目名	5	実践と	ジ	ネ	スコミュニ	ニケー	ーション	Ά							
科目名(英)															
単位数		2単位	<u>†</u>		時間数		30時間		担当者						
 実施年度		2022年	- 度		実施時期	FI .	前期	T	担当者実務網	圣験					
 対象学科·学年		国際ビジ	ネス科	11年	<u> </u>										
授業概要										現場でのコミュ 遣い、正しい敬		技能の習得を目的 て学習する。			
授業形式	講	 義: (С	演	習: △	実習:		実技	<u>ξ</u> :	※ 主た	 る方法:○	その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的 達動技能	態度意欲			な文法や	会話表現を理	里解し		で使用することが理解でき、実践					
テキスト・教材 参考図書	ſ	『マンガで体験! 日本のカイシャ』(日本漢字能力検定協会 2017)													
	回数														
	1														
	2	報告・連絡	₿∙相談	のや	り方 Chapter2					「ほうれんそう」	表現の暗記				
	3	問い合わ	せへの	電話	応対 Chapter3					問い合わせ表現	の暗記				
	4	3 問い合わせへの電話応対 Chapter3 問い合わせ表現の暗記 4 ビジネスメールの書き方 Chapter4 ビジネメール形式でのメールの練習													
	5	職場での	先輩へ	の相	談の仕方 Char	ter5				相談の表現で文	を作成する(プリ	ノント配布)			
	6	社内の人	の呼び	方、	社外の人の呼び	方 Chapte	er6			社内・社外の人	こなって会話を作	作成(プリント配布)			
松光计画	7	電話内容	の伝言	・メモ	の仕方 Chapte	r7				メモを見て伝える	る練習(プリント酉	己布)			
授業計画	8	約束の確	認の仕	:方	Chapter8					確認表現の暗記	3				
	9	人を紹介で	する際の	のマ	ナー(社内・社外	、目上·目	下) Chapter	9		会話文作成(プリ	ノント配布)				
	10	有給休暇	を申請	する	際の言い方とマ:	ナー Chap	ter10			休暇を願い出る	ときの表現の暗	記			
	11	出社と退れ	生のあり	いさつ	O・マナー Chapt	er11				会話文作成(プリ	リント配布)				
	12	仕事を担	当する	際の	心得 Chapter	12				仕事の内容を確	認する表現を暗	fil			
	13	話を中断る	させる際	祭の表	長現とマナー Ch	apter13				模試問題(プリン	/ト配布)				
	14	ビジネスメ	ールの	き割り	方 Chapter14	1				模擬問題(プリン	小配布)				
	15	まとめ・定	期試験	準備	i										
	以上	-を下記(の観点	点・害	削合で評価す	る。				験(筆記)を実 点以上)・D(59		·る。			
評価方法					言	語情報	知的技能	能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合			
A 1 1 1 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7			期試			0	0					40%			
	_	授業内			()	0	0					20%			
	\vdash		、テス 講状			<u> </u>	©	\dashv		0		20%			
履修上の注意	技				より変更にな	ことが	 ある。			ı Ü					

科目名	J	北較ス	と化	二論	ìΑ										
科目名(英)															
単位数		2単位	<u>'</u>		時間数		30時間		担当者		寺﨑	 業子			
 実施年度		2022年			実施時期	3	前期	1	担当者実務網	圣験					
	[国際ビジ	ネス種	斗1年											
授業概要	7	で学ぶ			を 伝わる伝統、 違いを理解、			行事	に関する知	識を広げると	ともに現在の	日本社会につい			
授業形式	講	義: (O	演 [:]	習: △	実習:		実技	ξ:	※ 主	たる方法:○	その他:△			
	言語 情報	知的 運動 技能		その他		I.	<u> </u>		目標						
	0				日本、または名	各国の文	化、慣習につ	ついて	の知識を得ん	3					
学習目標		0			上記について	の考察を	行い、そのご	文化、	慣習の背景	、理由、メリット	またはデメリッ	トを理解できる			
(到達目標)			0		積極的に授業	に参加し	,、ディスカッ [・]	ション	でも自分の意	意見、考えを発	表できる				
テキスト・教材 参考図書	参														
	回数														
	1														
	2	授業概要説明・異文化について 日本の地理的概要理解1													
	3	日本の地	理的	概要	理解2										
	4														
	5	日本の暮らし1													
	6	日本の着													
	<u> </u>	日本の交													
授業計画	7														
		日本の交													
				関3	・授業内評価テ	・スト									
	10	日本の食	[事1							自国の料理につ	ついて説明できる	ように準備			
	11	日本の食	事2												
	12	日本の食	事3												
	13	年中行事	≨ 1												
	14	年中行事	∓ 2							これまでの学習	内容の確認をし	ておくこと			
	15	年中行事	₹3•≢	とめ	•定期試験対策	ŧ									
	する	(5)受	講状	況は	をする (2)宿 は出席状況、抗 90点以上)・A	受業態度	E、課題提出	出状》	兄を観点とす	⁻ る		[−] る。			
評価方法					言	語情報	知的技能	能	運動技能	態度•意欲	その他	評価割合			
日川川ノノム			期試			0	0					40%			
		授業内	?評征	テフ	۲ ト	0	0					20%			
			トテス				1			0		20%			
		受	講状	況		0	0			0		20%			
履修上の注意	擅	受業計画	は状	況に	より変更にな	こことか	゙ ある。								

投業概要 日本におけるビジネスマナーの基礎である挨拶、身だしなみ、言葉づかいを理解するとともに、会社における基本的なマナー、慣習を実践できるよう講義を中心に、演習も交えて授業を行う 接業 20	科目名	-	企業多	ミ務	Α											
実施年度 2022年度 実施時期 前期 担当者実務経験	科目名(英)															
投業報要	単位数		2単位	<u>t</u>		時間数		30時間		担当者		寺﨑 芽	 €子			
接来新要 日本におけるビジネスマナーの基礎である接接、身だしなみ、言葉づかいを理解するとともに、会社における 基本的なマナー、復習を実践できるよう講義を中心に、演習も交えて授業を行う ※ 主たる方法:〇 その他:△ 大田 は	実施年度		2022年	- 度		実施時期	1	前期	担	当者実務網	圣験					
接来形式 講義: ○ 演習: △ 実習: 実技: ※ 主たる方法:○ その他:△			 国際ビジ	ネス科	1年	<u> </u>										
###	授業概要											解するとともに	、会社における			
	授業形式	講	 義: (С	演	習: △	実習:	5	実技:		※ 主#	とる方法:○	その他:△			
世間					その他					目標	Į					
日本の会社の領部、企業文化について、その背景、理由を理解し、説明できる 日本の会社の領部、企業の基本(日本の会社の主意会文学を指示) 日本の会社の領部・大き、選挙に使用できるよう練習のこと 日本の会社のでは、実際に使用できるよう練習のこと 日本の会社のでは、実際に使用できるよう練習のこと 日本の会社の領部・大き、選挙に使用できるよう練習のこと 日本の会社のでは、実際に使用できるよう練習のこと 日本の会社の表記を表記を書います。 日本の会権を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を		0				社会人として娘	必要なマナ	トー関連語彙	きがわれ	かるようにな	する					
### ### ### ### ### ### #############		0				日本の会社の	慣習、企	業文化につい	いての	語彙を覚え	<u>-</u> る					
後考図書】『留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール』(日本能率協会マネジメントセンター2020年) 回数 授業項目・内容 授業外学修指示 講座概要説明・マナーの重要性を考える/あいさつの基本① 2 あいさつの基本② 3 身だしなみについて① 4 身だしなみについて② 5 入室・退室・座り方のマナー② 7 話の聞き方・話し方・返事の仕方 8 言葉づかい② 実際に使用できるよう練習のこと 7 第の聞き方・話し方・返事の仕方 1 電話の受け方 電話の受け方 電話の受け方 電話の受け方 電話の受け方 電話の受け方 1 電話の要見 1 保護・組験 1 保護・企業・経験・機能・関係・経験・関係・関係・経験・関係・関係・関係・関係・関係・関係・関係・関係・関係・関係・関係・関係・関係・	(到達目標)		0			日本の会社の	慣習、企	業文化につい	いて、そ	その背景、	理由を理解し、	説明できる				
** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **																
** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **																
1 講座概要説明・マナーの重要性を考える/あいさつの基本① 2 あいさつの基本② 3 身だしなみについて① 4 身だしなみについて② 5 入室・退室・座り方のマナー① 6 入室・退室・座り方のマナー② 7 話の聞き方・話し方・返事の仕方 8 言葉づかい② 実際に使用できるよう練習のこと 10 授業内評価テスト・電話の受け方 11 電話の受け方 11 電話の受け方 12 電話のかけ方 13 電話での表現 14 報告・連絡・相談 15 まとめ・定期試験準備 (1)随時・小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実する (5)受講状況は出席状況・授業態度、課題提出状況を観点とする成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 言語情報 知的技能 運動技能 態度・意欲 その他 評価割合 定期試験 ② ③ 単加対能 20% 20% 40% 20% 10%	テキスト・教材 参考図書						の <i>た</i> めのเ	ビジネスマナ	ーとル	ール』(日:	本能率協会マ	ネジメントセンタ	一2020年)			
2 あいさつの基本② 3 身だしなみについて① 4 身だしなみについて② 5 入室・退室・座り方のマナー① 6 入室・退室・座り方のマナー① 6 入室・退室・座り方のマナー② 7 話の聞き方・話し方・返事の仕方 8 言葉づかい① 実際に使用できるよう練習のこと 9 言葉づかい② 10 授業内評価テスト・電話の受け方 11 電話の受け方 12 電話のかけ方 12 電話のかけ方 13 電話での表現 14 報告・連絡・相談 15 まとめ・定期試験準備 15 まとめ・定期試験準備 10 随時・ハテストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 言語情報 知的技能 運動技能 態度・意欲 その他 評価割合 定期試験 ② ②		回数				授業耳	頁目·内?	容				授業外学修	指示			
接来計画		1	講座概要	説明•	・マナ	一の重要性を	考える/	´あいさつの	基本①							
投業計画		2														
接来計画		3														
投業計画 名		4	7													
投業計画 名		5	入室•退	幸•座し	り方の	カマナー ①										
7 話の聞き方・話し方・返事の仕方 実際に使用できるよう練習のこと 実際に使用できるよう練習のこと 実際に使用できるよう練習のこと 1~7回の復習を行うこと(授業内評価テスト準備) 10 授業内評価テスト・電話の受け方 11 電話の受け方 12 電話のかけ方 13 電話での表現 14 報告・連絡・相談 15 まとめ・定期試験準備 1)随時小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 言語情報 知的技能 運動技能 態度・意欲 その他 評価割合 定期試験 ② ③ 40% 投業内評価テスト ② ④ 20% 小テスト ② ④ 20% 20%		<u> </u>														
接業計画 8 言葉づかい① 実際に使用できるよう練習のこと 実際に使用できるよう練習のこと 実際に使用できるよう練習のこと 1~7回の復習を行うこと(授業内評価テスト準備) 10 授業内評価テスト・電話の受け方 11 電話の受け方 12 電話のかけ方 13 電話での表現 14 報告・連絡・相談 15 まとめ・定期試験準備 10 版時・ホテストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 言語情報 知的技能 運動技能 態度・意欲 その他 評価割合 定期試験 ② ③ 40% 日本記録 20% 40% 20% 小テスト ② ② 20% 2		ļ-														
9 言葉づかい② 実際に使用できるよう練習のこと 1~7回の復習を行うこと(授業内評価テスト準備) 10 授業内評価テスト・電話の受け方 11 電話の受け方 12 電話のかけ方 13 電話での表現 14 報告・連絡・相談 15 まとめ・定期試験準備 (1)随時小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 言語情報 知的技能 運動技能 態度・意欲 その他 評価割合 定期試験 ⑤ ⑥ □ □ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	授業計画	<u> </u>			1071	<u> </u>					中際には田でき	フレン体羽のこし				
1~7回の復習を行うこと(授業内評価テスト準備) 10 授業内評価テスト・電話の受け方 11 電話の受け方 12 電話のかけ方 12 電話のかけ方 13 電話での表現 14 報告・連絡・相談 15 まとめ・定期試験準備 (1)随時小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 言語情報 知的技能 運動技能 態度・意欲 その他 評価割合 定期試験		ļ.														
11 電話の受け方 12 電話のかけ方 13 電話での表現 14 報告・連絡・相談 15 まとめ・定期試験準備 (1)随時・ハテストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		ļ-														
12 電話のかけ方 13 電話での表現 14 報告・連絡・相談 15 まとめ・定期試験準備 (1)随時小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		10	授業内部	「価テス	スト・	電話の受け方										
13 電話での表現		11	電話の受	が方												
14 報告・連絡・相談 15 まとめ・定期試験準備 (1)随時小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 言語情報 知的技能 運動技能 態度・意欲 その他 評価割合 定期試験 ② ② 40% 投業内評価テスト ② ② ② 20% 小テスト ② ③ ② 20%		12	電話のか	いけ方												
Table Ta		13	電話での	表現												
(1)随時小テストを実施する (2)宿題を数回課す (3)授業内評価テストを実施する (4)定期試験(筆記)を実する (5)受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		14	報告•連	絡•相詞	淡											
評価方法 する (5) 受講状況は出席状況、授業態度、課題提出状況を観点とする 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。 評価方法 国動技能 運動技能 態度・意欲 その他 評価割合 定期試験 © © 40% 授業内評価テスト © © 20% 小テスト © 20%		15	まとめ・気	E期試	験準	.備										
評価方法 定期試験 © 40% 授業内評価テスト © © 20% 小テスト © 20%		する	(5)受	講状》	況は	出席状況、持	受業態度	、課題提出	状況を	を観点とす	る					
定期試験 © 40% 授業内評価テスト © © 小テスト © 20%	評価方法		·			言		知的技能	臣 選	動技能	態度·意欲	その他	評価割合			
小テスト ◎ 20%	14 May 2 244							_								
						(-	0	0			_					
文i											_					
				i 萬状》	兀		0	O			O		20%			

科目名	I	T基礎	ĚΑ												
科目名(英)															
単位数		4単位	立		時間	数	60時間		担当者						
実施年度		2022年	度		実施時	期	前期		担当者実務	経験					
対象学科・学年	3	国際ビジ	ネス	科1年											
授業概要	W #	/ord)を使	用し、 語入	、操作 力の	方法や実務	に合わせ	せた基礎演習	を中心	いに授業を行			のOffice(主に や日本語タイピン			
授業形式	講	義: 4	Δ	演 [:]	習: 0	実習	! :	実打	支:	※ 主 <i>t</i> :	-る方法∶○	その他:△			
	言語 情報	知的 運動 技能	態度意欲	その他		•			目標	Ę					
	0				日本語入:	力に必要	なローマ字	を覚	えて使うこと	ができる。					
学習目標		0			ローマ字グ	人力を用	いてタイピン	ノグ操	作ができる。						
(到達目標)		O Wordの基本操作を身につけて、ビジネス文書作成や表作成ができる。													
		ᄧᄱᆇᅭᄼ	N+ 1	6 O T	T = + > 1	未出行	ᅲᄮᇷᆽ	/基\	力但用兴	<u> </u>	(▼DD)				
テキスト・教材 参考図書	P	『留学生のためのITテキスト』森 由紀、平井 智子(著)、久保田 学 監(2019 日経BP) P検タイピング練習 インターネット版(ソーシャル投稿非対応 学校内利用推奨)													
7.524			ww.p	ken.							拉娄以学 校	<u> </u>			
		https://www.pken.com/tool/typing.html 数 授業項目・内容 授業外学修指示 -2 オリエンテーション 共有フォルダの作成 日本語入力の使い方													
									!い力		- 佐丽 - か/-	- 1			
		4 ファイルを開いて編集 ファイル名の変更 短文の入力 ローマ字について復習しておくこと。													
		-6 日本語の長文入力、タイピング練習 ローマ字入力の練習をしておくこと。													
					ジネス文章の										
	9-10	ビジネス	文書	作成.	、タイピング A	東習 ————				タイピングの練習	習をしておくこと				
	11-12	ビジネス	文書	作成.	、タイピング約	東習				タイピングの練習	習をしておくこと				
授業計画	13-14	ビジネス	文書	作成.	、タイピング	棟習				タイピングの練習	習をしておくこと				
汉朱阳昌	15-16	ビジネス	文書	作成.	、タイピング	東習				タイピングの練習	習をしておくこと				
	17-18	ビジネス	文書	作成.	、タイピング	東習				タイピングの練習	習をしておくこと				
	19-20	ビジネス	文書	作成.	、タイピング約	東習				タイピングの練習	習をしておくこと				
	21-22	ビジネス	文書	作成.	、タイピング	東習				Wordの基礎操作	すを練習しておく	ےے			
	23-24	テキスト・	・オブ	ジェク	トの挿入 🧗	 表作成				Wordの基礎操作		<u>ـــ</u>			
	25-26	私の国の)自慢	の食	 で物					Wordの基礎操作	 作を練習しておく	 こと			
	27-28	説明文σ)編集							Wordの基礎操作	 作を練習しておく	 こと			
	29-30	作成した	レポ・)発表					Wordの基礎操作	 作を練習しておく	 			
	(1)	 授業の「	中で記	果題	<u></u> を作成する	。(2)出	 席回数を評	価す	る。(3)授業	態度を評価す		試験の結果を評			
	価し	ない。			割合で評価										
							i以上)•B(7	70点以	以上)•C(60;	点以上)•D(59	点以下)とす	⁻ る。			
評価方法						言語情報	日 知的技	能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合			
計画力法		課題	<u>・レ</u> 7	ポート	-	0	0					50%			
		授業内	可評价	西ティ	۲۲	0	0			0		40%			
		受	講状	況						0		10%			
履修上の注意	討	果題は毎	回忘	れず	に提出する	ること。こ	の科目は再	 手試験	は実施しな	ر۱ _°					

科目名	1	社会	€教	養												
科目名(英)		2単位 時間数 30時間 担当者 寺崎 葉子・徳永 明希子 2022年度 実施時期 前期 担当者実務経験														
単位数		2.	単位		時間数	Ţ	30)時間	担当者	4	i﨑 葉子·德	永 明希子				
実施年度		202	22年度	Ę	実施時期	Ħ	Ī	前期	担当者実務	経験						
対象学科・学年	[3	国際ビ	゙゙ジネス	ス科1年	F.					•						
授業概要	2	2)2年	間の	学生生		目標を	達成す	けるため、	1年次をどの。	ら上で必要なん ようにすごすた	レールを理解 い考える	する				
授業形式	講	義:	Δ	演	習: 〇	実習	国:	実	技:	※ 主	たる方法: O	その他:△				
	言語 情報			度なの他				,	目標	Ę						
	0				学生生活に必	必要なん	ルール、	学校の規	則、マナーに関	する言葉を理り	解する					
学習目標		0			学習した麻生	- 塾での	D学生生	上活に必要	なルール、学校	での規則、マナー	ーを実践できる	ようになる				
(到達目標)		授業に積極的に参加し、課題にも真摯に取り組み、提出期限までに提出できるようになる														
		##T/L-#-PUN L PP L PN 0.00 T = 1- PL PN														
テキスト・教材 参考図書	i	」														
	回数															
	1	授業項目・内容 授業外学修指示 専門学校の理解・麻生塾の理解・目標設定①														
	2	専門:	専門学校の理解・麻生塾の理解・目標設定① 専門学校の理解・麻生塾の理解・目標設定② 個人の前期目標・年間目標も考えておく													
	3	専門:	専門学校の理解・麻生塾の理解・目標設定② 個人の前期目標・年間目標も考えておく 専門学校の理解・麻生塾の理解・目標設定③													
	4	クラス														
	5	クラス	クラス内活動① クラス内活動②													
	6	クラス	ス内活動	動③												
授業計画	7	学校	の理解	₽・日本	の理解①											
授未計画	8	学校	の理解	₽・・日本	の理解②											
	9	交流	会													
	10	日本	語力向]上対第	E (1)											
	11	日本	語力向]上対第	₹②											
	12	日本	語力向]上対策	E 3											
	13	前期:	振り返	IJ												
	14	麻生	塾の就	職につ	いて(就職講	話)										
	15	夏休。	み前注	意∙期	末試験につい	τ										
	R評	15 夏休み前注意・期末試験について														
評価方法					1	語情	報	印的技能	運動技能	態度·意欲	その他	評価割合				
H				題						0		50%				
			受講	状況						0		50%				
履修上の注意	括 3	受業計 を流会	†画は ≹の日	状況に 時は予	より変更にな 5定日時と前	なるこ。 後する	とがあっ ることが	る。 『ある。 再	試験は実施し	しない。						